

# HOPE MEETINGS

with Nobel Laureates

人生を変える出会いが  
あなたを待っている！



ノーベル賞受賞者との5日間

若手研究者100人と

アジア・太平洋、アフリカ地域の

博士課程  
後期  
学生

ポスドク  
研究者



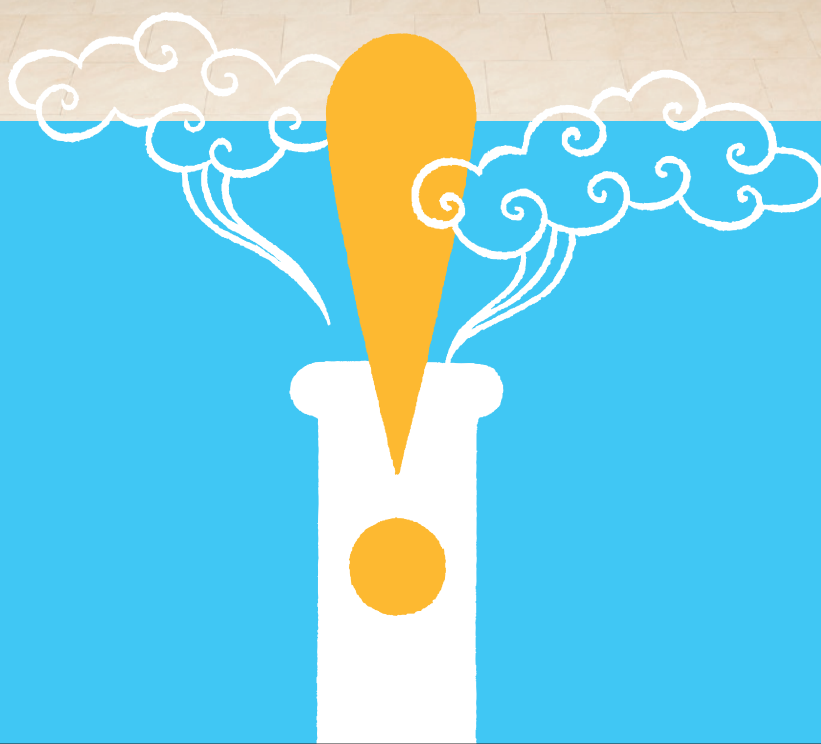
Art in Science

日本学術振興会

# HOPEミーティングとは？

HOPEミーティングは、アジア・太平洋、アフリカ地域から選抜された優秀な大学院生等を対象として、ノーベル賞受賞者などの世界の知のフロンティアを開拓した人々との対話、同世代の研究者との交流、さらには人文社会分野の講演や芸術プログラムを通じて、科学者としてより広い教養の涵養と人間性の陶冶を図り、彼らが将来のアジア・太平洋、アフリカ地域の科学研究を担う研究者として飛躍する機会を提供するものです。

会議名の「HOPE」という言葉には、「活躍が期待される若手研究者」と「将来のアジア・太平洋、アフリカ地域の科学技術コミュニティ形成に向けての希望」という2つの意味が込められています。





HOPEミーティングが、他の多くの学術的な国際会議と異なる点は、以下のとおりです。

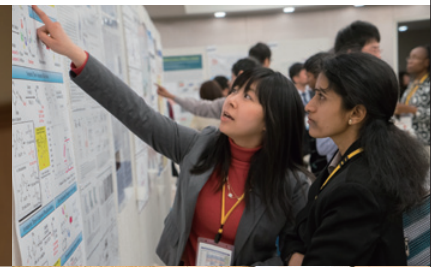
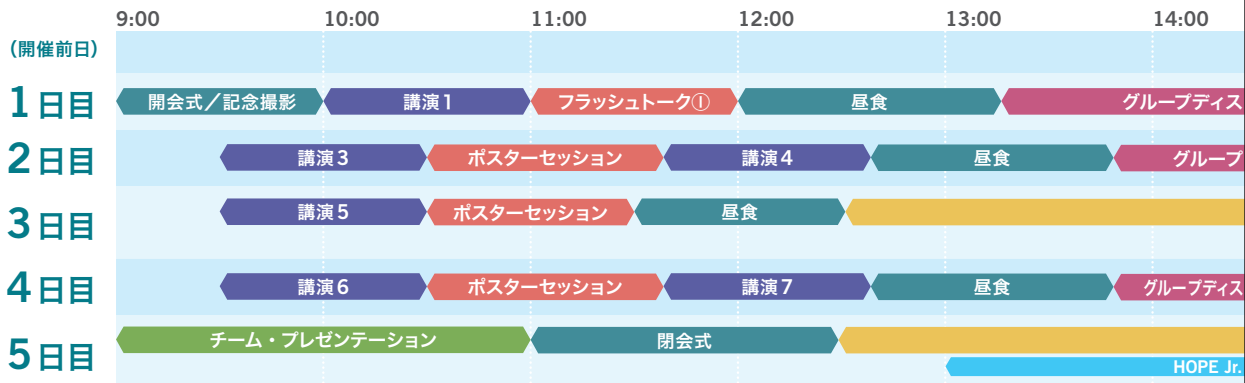
- 1 ノーベル賞受賞者など著名な科学者と会期中に密接にかかわることができる
- 2 多国籍・多文化・多分野にわたるチームメンバーとミーティング期間中に共通の課題に取り組み、発表することで、短期間に人間関係を深めることができる(5日間の合宿形式)
- 3 進路の悩み・研究成果を求められることへのプレッシャー・研究費の獲得・私生活と研究生活の両立など、同世代の抱える問題について地域を超えて理解し合うことができる
- 4 学際的研究へ視野を広げることの効果、国際交流の大切さなどを実感することができる

参加国  
・  
地域

日本、オーストラリア、バングラデシュ、中国、エジプト、インド、インドネシア、イスラエル、ケニア、韓国、マレーシア、モンゴル、ニュージーランド、フィリピン、シンガポール、南アフリカ、台湾、タイ、ベトナム  
(実績：第6回時点)

# HOPE ミーティングのプログラム

- 1 ノーベル賞受賞者など著名な研究者の講演
- 2 ノーベル賞受賞者など著名な研究者との少人数のグループディスカッション\*1
- 3 ポスターセッションなど学術研究の発表・意見交換
- 4 研究分野・国や地域・性別の混成チームによるチームプレゼンテーション





**5** コンサートや日本文化体験プログラム\*2

**6** 研究施設見学\*3

**7** 文化施設見学\*4

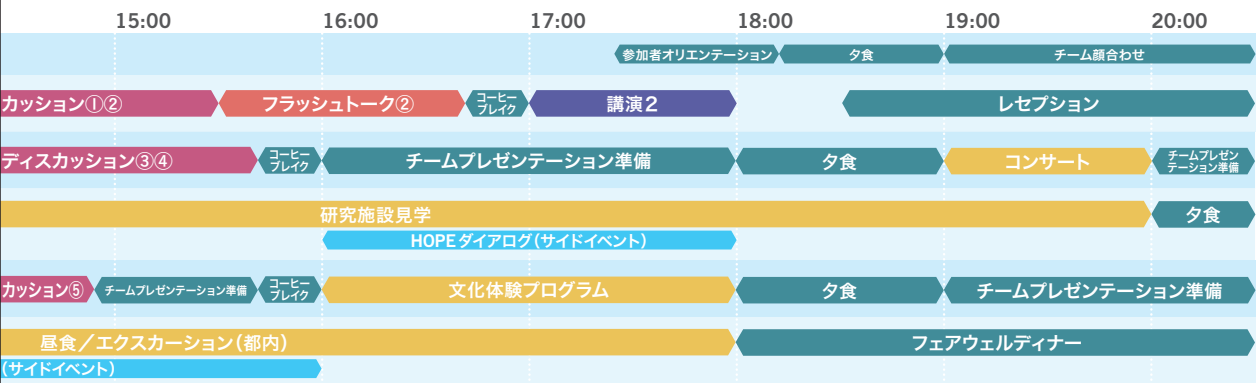
**8** レセプションやフェアウェル・ディナーなどの会食

\*1 グループディスカッションは、各部屋20人程度で講演者を囲みます。各人は、複数回参加できます。

\*2 和楽器の演奏・着物の着付け・茶道・書道・生け花など(実績)

\*3 高エネルギー加速器研究機構(KEK・つくば)、エーザイ株式会社筑波研究所、理化学研究所(和光)など(実績)

\*4 浅草観光・日本科学未来館見学など(実績)



※プログラムの一例です。実際の内容は異なる場合があります。





# HOPEミーティング参加者の声

HOPEミーティング終了直後の「参加者レポート」と、数か月～数年後に寄せられたメールより、日本国内から選抜された参加者の生の声を集めました。ミーティングの余韻を残す感想とミーティングの経験を今に生かす先輩たちからのメッセージです。

## 私のHOPEミーティング — 第6回HOPEミーティングの「参加者レポート」より —

※原文は英語。翻訳はJSPSによる。ポジションは参加当時のもの。

● 私がHOPEミーティングへ参加しようと思った理由は、自分自身の科学者としての可能性を試したいと思ったからでした。大学院の後期課程には進みましたが、研究者あるいは職業としての科学者としてやっていく能力が、自分にあるかどうか自信がなかったのです。高名な研究者や世界中の博士課程の学生に囲まれれば科学者世界において、自分がどういう位置にいるのか、明確になるのではないかと思ったのです。HOPEミーティングに参加するだけでは、答えにはたどり着きませんでした。私の今後の選択にこの経験が大いに役立つであろうことは間違いありません。

● (男性・博士課程学生・化学工学)

● 正直に言うと、会議が始まる前は、第6回HOPEミーティングに参加しようと思ったのを後悔していました。一週間もこんなタイトなスケジュールにみっちり縛られて、自分自身の研究を進める暇もないなんて時間の無駄だと思ったくらいです。実際、スケジュールはものすごくタイトでした。でも今、私はまるで正反対の気分です。会期全体をとおして、他の参加者と、あるいは講演者と、刺激的な会話を交わしたり、本物の議論をしたりできました。HOPEミーティングは特に、異なった分野の人々が集まってお互いを理解しようとする特別な機会でもありました。

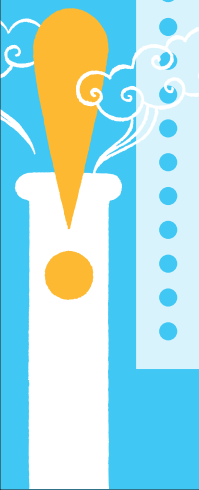
● (男性・ポスドク・数物科学)

● 私には、今の日本の状況を変えられるような女性科学者になるという夢があります。他国に比べて、日本人の女性研究者は少ないからです。だから私は女性研究者の模範となるような科学者となって、この日本の状況を変えたいのです。この夢をかなえるため、トップレベルの科学者や同世代の研究者と科学について考えたいと思ったのです。実際、HOPEミーティングには女性研究者が多数出席しており、みんなとても行動的で魅力的なのにはびっくりしました。HOPEミーティングに参加したことで、将来への新しい展望を得ました。

● (女性・博士課程学生・化学)

● 私は国際的なチームで仕事をするの難しさを実感しました。私たちのチームは9人いて、それぞれバングラデシュ・インド・中国・モンゴル・インドネシア・南アフリカ・シンガポール、そして日本から来ていました。もちろん彼らにはそれぞれの歴史があり、文化があり、宗教があり、ものの考え方も違っているのです。このような違いがものを難しくしました。誰にもみな、それぞれの異なる背景から導き出される、それぞれの意見やアイデアがあったからです。だから、コンセンサスを得るのはとてもたいへんでした。

● (男性・博士課程学生・生物学)



# HOPEミーティング参加者の声

## HOPEミーティングを「今」に生かす —HOPEミーティング経験者からのメールより—

※回数は参加した回、ポジションは参加当時のもの。

D1の時に参加させて頂き、ノーベル賞受賞者と親密な時間を過ごしたことで、また世界の志の高い学生と知り合える機会を頂いたことに深く感謝しております。参加者から刺激とモチベーションをもらった貴重な経験で、博士課程に進学してよかったと心底思える瞬間でした。

(第5回・男性・博士課程学生・生体分子系)

HOPEミーティングに参加して、色々な博士課程の人達と出会えた事で、その当時悩んでいた事が自分だけではなかったんだと励まされたり、上には上がいるんだと強い刺激になったり、と他では得難い経験をたくさんしました。心より感謝しております。

(第4回・女性・博士課程学生・有機化学)

HOPEミーティングへの参加を通して得たものは現在の仕事に生きております\*。

\*注:現在助教

(第4回・男性・博士課程学生・熱工学)

演者の方々からは、研究者としての心構えなど多岐にわたってご教示いただき、大変有意義な日々を過ごさせて頂きました。また、各国から参加した博士との交流を通じ、今後の自分のキャリアプランを明確にすることができました。

(第6回・女性・博士課程学生・医歯薬学)

HOPE Meetingはノーベル賞受賞者による講演、議論、そして世界の若手研究者と交流できる非常に価値あるミーティングでした。(中略)海外での活動、そして異国の人との交流は、研究者・人間としての成長にとって非常に意義ある有益なものです。現在もHOPE Meeting参加者と定期的に連絡を取ったり、また共同研究の話もあり、会議中だけの関係ではなく、将来にわたる貴重なネットワークを築ききっかけになっています。

(第6回・男性・ポスドク・化学)

海外ポスドクをやる自信になった。

(第3回・男性・博士課程学生・応用光学)

HOPEミーティング後、私は留学を決断して、今はオーストラリアで研究に励んでいます。

(第5回・男性・ポスドク・生物物理学)

日本の学生は日常で英語に触れる機会が少ないと思われます。しかしながら、研究を進めて行く上で英語は不可欠です。英語を通じた交流は私たちの探究心をより一層強いものにしてくれました。HOPEミーティングに参加できたことを誇りに思います。そして、後輩たちにも参加を強く勧めしております。

(第6回・男性・博士課程学生・生物学)



# HOPEミーティングの歩みとこれまでの講演者

HOPEミーティングは、2008年2月に産声を上げました。第2回からは、“Art in Science”をテーマとし、ノーベル賞受賞者をはじめとするすばらしい講演者を迎え、毎年盛況のうちに回を重ねてきました。その歩みをご紹介します。

## 第1回 — ナノサイエンス・ナノテクノロジー —

- 日 時: 2008年2月25日(月)～28日(木)〈4日間〉  
\*2月24日(日): 受付
- 会 場: つくば国際会議場(茨城県つくば市)
- 参加者: 81名(13の国と地域から)
- 講演者: ・江崎 玲於奈(1973年ノーベル物理学賞)《組織委員長》  
・ハインリッヒ・ローラー(1986年ノーベル物理学賞)  
・ロバート・B・ラフリン(1998年ノーベル物理学賞)  
・白川 英樹(2000年ノーベル化学賞)  
・アラン・ヒーガー(2000年ノーベル化学賞) 他

## 第2回 — 化学及び関連分野 —

- 日 時: 2009年9月28日(月)～10月1日(木)〈4日間〉  
\*9月27日(日): 受付・オリエンテーション・レセプション
- 会 場: ザ・プリンス箱根(神奈川県足柄下郡箱根町)
- 参加者: 100名(14の国と地域から)
- 講演者: ・江崎 玲於奈(1973年ノーベル物理学賞)  
・小林 誠(2008年ノーベル物理学賞)  
・ユアン・T・リー(李遠哲)(1986年ノーベル化学賞)  
・野依 良治(2001年ノーベル化学賞)《組織委員長》  
・田中 耕一(2002年ノーベル化学賞)  
・ピーター・アグレ(2003年ノーベル化学賞)  
・利根川 進(1987年ノーベル生理学・医学賞) 他

## 第3回 — 物理学及び関連分野 —

- 日 時: 2011年3月7日(月)～11日(金)〈5日間〉
- 会 場: グランドプリンスホテル新高輪(東京都港区)
- 参加者: 99名(14の国と地域から)
- 講演者: ・江崎 玲於奈(1973年ノーベル物理学賞)  
・デイヴィッド・J・グロス(2004年ノーベル物理学賞)  
・小林 誠(2008年ノーベル物理学賞)《組織委員長》  
・益川 敏英(2008年ノーベル物理学賞)  
・リチャード・R・エルンスト(1991年ノーベル化学賞)  
・白川 英樹(2000年ノーベル化学賞)  
・野依 良治(2001年ノーベル化学賞)  
・田中 耕一(2002年ノーベル化学賞)  
・アダ・E・ヨナット(2009年ノーベル化学賞) 他

## 第4回 未来を創る化学 — 化学及び関連分野 —

- 日 時: 2012年3月7日(水)～11日(日)〈5日間〉  
\*3月6日(火): 受付・オリエンテーション
- 会 場: つくば国際会議場(茨城県つくば市)
- 参加者: 100名(17の国と地域から)
- 講演者: ・江崎 玲於奈(1973年ノーベル物理学賞)  
・小林 誠(2008年ノーベル物理学賞)《組織委員長》  
・ジョン・E・ウォーカー(1997年ノーベル化学賞)  
・野依 良治(2001年ノーベル化学賞)  
・ロデリック・マキノ(2003年ノーベル化学賞)  
・鈴木 章(2010年ノーベル化学賞)  
・根岸 英一(2010年ノーベル化学賞)  
・ダン・シェヒトマン(2011年ノーベル化学賞) 他

## 第5回 — 生命科学及び関連分野 —

- 日 時: 2013年2月26日(火)～3月2日(土)〈5日間〉  
\*2月25日(月): 受付・オリエンテーション
- 会 場: グランドプリンスホテル新高輪(東京都港区)
- 参加者: 98名(16の国と地域から)
- 講演者: ・江崎 玲於奈(1973年ノーベル物理学賞)  
・小林 誠(2008年ノーベル物理学賞)《運営委員長》  
・白川 英樹(2000年ノーベル化学賞)  
・野依 良治(2001年ノーベル化学賞)  
・アーロン・チカノーヴァー(2004年ノーベル化学賞)  
・利根川 進(1987年ノーベル生理学・医学賞)  
・マリオ・カベッキ(2007年ノーベル生理学・医学賞) 他

## 第6回 — 物理学、化学、生理学・医学及び関連分野 —

- 日 時: 2014年3月11日(火)～15日(土)〈5日間〉  
\*3月10日(月): 受付・オリエンテーション
- 会 場: グランドプリンスホテル新高輪(東京都港区)
- 参加者: 106名(19の国と地域から)
- 講演者: ・小林 誠(2008年ノーベル物理学賞)《運営委員長》  
・ブライアン・シュミット(2011年ノーベル物理学賞)  
・白川 英樹(2000年ノーベル化学賞)  
・マーティン・チャルフィー(2008年ノーベル化学賞)  
・根岸 英一(2010年ノーベル化学賞)  
・リチャード・ロバーツ(1993年ノーベル生理学・医学賞) 他

お問い合わせ



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE

日本学術振興会

独立行政法人日本学術振興会

国際事業部研究協力第一課 HOPEミーティング担当

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-3-1

TEL:03-3263-2414 FAX:03-3234-3700 E-mail:hope-meetings@jps.go.jp URL:http://www.jps.go.jp/hope/index.html